

プレゼン：3月10日 A会場 13:30～ 予防保全、予知保全の可能性

対象業務の現状と取組み

■対象業務 ■現状課題

製造業における設備稼働状況/計画へフィードバック

生産現場では、設備機械の稼働、非稼働の簡単な状態はわかるが、どのような作業を行っているのか、何をしているのか詳細情報はわからない。

工場には、最新のNCデータ工作機から汎用機まで多種多様な設備があり、

全ての設備から共通の仕組みで稼働状況を収集出来るものが無く、進捗報告は、作業者の報告に委ねられている。

■取組みテーマ

新旧の設備から、自動で稼働状況（稼働明細、実績工数、実績数量…）の収集を可能にすることで、可動状況の明細が自動的に取得。さらに作業指示と連携することにより、終了予定や遅れ等の進捗も把握。

実証実験・業務シナリオ（TO-BE）・成果

■業務シナリオ(変革のポイント)

設備の稼働状況明細（運転モード：自動/手動、）の自動収集。
収集した結果を計画へフィードバック。

■実証実験の概要

新旧全ての設備稼働状況明細の見える化。**※対象設備側の前提条件無し。**
作業内容の詳細や、進捗状態の把握、実作業時間、実績数量の把握が出来れば、作業の改善に結び付き、作業の効率化も可能となる。
また、進捗状況（残作業時間）に応じた、再計画も可能とする。

■成果

新旧の設備に安価な専用デバイスを設置し、全ての設備から共通の仕組みで稼働状況明細を収集可能なことを実証。
設備の稼働状況明細の見えるかと計画のリンクにより進捗状況の見えるか、タイムリーな再計画立案も可能となった。



ファシリテータ: 荒井 善之: 株式会社ツバメックス
エディタ: 伊藤 昭仁: 株式会社 シムトップス
エディタ: 栗田 圭: 栗田産業株式会社
エディタ: 佐々木 泰三: 日東電工株式会社
エディタ: 茅野 大二郎: 株式会社ニコン
エディタ: 永森 久之: 錦正工業株式会社
エディタ: 賀田 昭: 株式会社スギノマシン

操作盤で作業者が行う作業から稼働情報を取得



利用プラットフォーム

